

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2690900374		
法人名	ヒューマンライフケア 株式会社		
事業所名	ヒューマンライフケア伏見 グループホーム(2F)		
所在地	京都府京都市伏見区日野谷寺町68		
自己評価作成日	平成30年3月13日	評価結果市町村受理日	平成30年7月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JirvosyoCd=2690900374-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JirvosyoCd=2690900374-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年4月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

施設内での体を動かしてもらうことは毎日行い、プラスで外に出かける機会がたくさん取るようにしています。食事も湯銭ではなく、調理を利用者にしてもらうことや味付けのアドバイス、共に作ることを目的に1から作ることを方針として持っています。調味料やおやつは利用者さんと買い物に行く機会を増やすためにスーパーで購入することにしてあります。外食の機会や公園でおやつを食べたりする機会も作っています。体を動かすことだけでなく、計算問題から塗り絵、文字の書き取り、習字などにも取り組んでいます。体を動かし頭を使いしっかりと食事を食べることで健康維持をされています。職員に関しては何か取り組みたいことは出来る環境にあると思います。家族レターでは各利用者ごとに写真を入れ、どのような日常を過ごされているのかを知ってもらえる取り組みをしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該ホームは日々散歩に出かけており、利用者が外気に触れる機会を多く作るようにしています。調味料やおやつ等の買い物やドライブの他、初詣や桜、つじ、紅葉見学等季節毎の外出も取り入れ、利用者が少しでも戸外に出かけられるよう支援しています。また、楽しみながら入浴できるよう桃やよもぎ、桜、菖蒲、柚子など毎月様々な季節湯を企画し実施に向けて取り組んでいます。入浴時間についても希望があれば対応できるよう体制を整え就寝前に入っている方もいます。食事は献立と食材が業者から届いていますが、ホームで作ることを大切にし利用者にしてにできることに携わってもらいながら一緒に作っています。月1回は業者からの食事を止め、お好み焼きや鍋物等好みの物を作ったり、回転ずしや洋食などの外食も取り入れ食事が楽しみなものとなるよう工夫をしています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と利用者が人との関わりを大切にケアを行うようにしている。	法人理念を基に職員間で話し合いホーム独自の理念を作成し事務所に掲示すると共に新任入職時には理念についての説明を行い意識づけをしています。家族のように寄り添って支え合いながら暮らせるよう日々の支援に努め、理念の実践に向けて取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩などから近隣への挨拶を通して地域の方への認識が出てきている。管理者が地域の防災訓練や夜間巡回に出ている。	自治会に加入し、自治会長とは馴染みの関係ができており、運営推進会議等で地域の様々な情報を持ち利用者や区民運動会の見学に行ったり職員は夜間のパトロールにも出ている。併設の事業所と合同で行う秋祭りには地域の子どもの参加を得て交流をしたり、事業所内の見学などもしてもらっています。地域で使用した流し素麺の竹をもらいホームでも地域の高齢者の参加を得て行っています。地域の方から野菜の苗をもらったり、園芸についてのアドバイスをもらうこともあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	秋祭りを行い、近隣への参加を促し施設内を診てもらえる工夫をした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を行い、出てきた意見をケアに生かされることを考えている。家族参加が昨年よりは増えたが、人数としてはまだ課題が残る。	会議は併設の事業所と合同で自治会長や民生委員、地域包括支援センター職員、時には家族の参加を得て隔月に行い、利用者の状況や行事、苦情、事故報告等と意見交換を行っています。花見の行き先のアドバイスをもらい外出行事に反映したり、内容によっては検討中の事案もあり得られた意見を活かせるよう努めています。会議の案内や報告書は全家族に送付しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明なことがあれば問い合わせを行うようにしている。	運営推進会議の議事録は施設長が届けており、わからないこと等あれば電話で聞くようにしています。介護保険の更新時や事故報告等で役所に行くこともあります。行政職員の参加する地域ケア会議に参加したり、行政から案内の届く研修にもできる限り参加するようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ドアを施錠しているが、外せる時間を職員同士で話して開錠を少しづつ行っている。	年1回身体拘束についての研修をマニュアルに沿って行い、参加できなかった職員はマニュアルを確認することで理解を深めています。安全に見守るためにセンサーを使用している方もおり、家族の了承を得ています。エレベーターやフロアの入り口は施錠していることもありますが、外に出たい希望があれば職員が付き添って出かけたり、家事などをしてもらい気分転換を図っています。	

ヒューマンライフケア伏見 グループホーム(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拠点内研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	拠点内研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明を行うことと、今年度改定したときは1人1人に十分な説明を行った。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員が来所し意見を聞くことをしていた。	利用者からの要望は日々聞いており、できることは都度対応しています。家族に利用者の様子等は毎月の便りの中や面会時に伝え、運営推進会議や面会時等に聞くようにしています。外出についての要望を受け各フロアとも外出の機会を増やしたり、料理や運動の要望に対しては家事全般に関わってもらうなど意見や要望をサービスに反映するようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段からのコミュニケーションをとり、運営に反映している。管理者のいないフロアではリーダーをたて話を聞く機会を作っている。	職員の意見や提案は毎月のフロア会議や日々の業務の中で聞いており、散歩促進委員会や体操推進委員会などの各種委員会からの意見も挙がり、意見や提案を職員会議等で検討し、日々の支援やレクリエーション等の取り組みに反映させています。また、ホーム全体としての目標を掲げ、職員個々に振り返りをしてもらい、それを基に随時面談を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の目標をあげ、振り返りを提出してもらい、管理者からコメントを返すことで日々のケアへの充実を持ってもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には毎月研修を行いスキルアップが出来る環境を作っている。経験者には2か月ごとに研修を行った。外部研修にも参加出来ることを進めて参加された。		

ヒューマンライフケア伏見 グループホーム(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設のグループホームへ見学に行き、施設で行えることなどを学んできた。3月後半に外部から見学が来所する。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今年度は初期の利用者はいなかったが、日々のケアから聞き取りをしてアセスメントに生かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今年度は初期の利用者はいなかったが、面会時に家族と話をする機会を作って、聞き取りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今年度は初期の利用者はいなかったが、ケアプランの振り返りや毎月のケアカンファレンスで各個人について話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔からのなじみの関係を利用者の方から言われたりしてもらっています。買い物からおやつと一緒に決めたり食事を用意片付けも一緒にすることで共に生活をしている空間が出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などにここでの生活を話、昔していたことをここでも出来る工夫をすることで、家で過ごしていたことの継続をすることで入居してからも同じような生活をしてもらいたい思いで生活してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居してからも思い出の場所を思い出されるような場所へドライブへ出かけたりして過去の話をしてもらっています。	友人等の面会時には居室等に案内しお茶や椅子などを用意しゆっくりと過ごしてもらえよう配慮しています。家族と一緒に自宅に帰ったり法事や墓参り等に出かける際は薬の準備や身支度等の支援を行っています。居室前には其々の利用者が慣れ親しんだ思い出の場所の写真を貼り、昔を懐かしんでもらったり、以前に住んでいた場所や神社へドライブするなど今までの関係が途切れないよう支援しています。	

ヒューマンライフケア伏見 グループホーム(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関われるレクリエーションをしたりしている。一緒に何かをしている写真を貼ることで共にしていたことを思い出してもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方はおられないが、利用者以外の介護の相談をされたりした時も応じている。契約が終了してもフォローしたいと出来る限りのフォローはしたいと考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人がしたいことを最大限に考え、実践できるようにしている。1人1人の思いを聞けるように1対1の関わりを増やせれるようにしている。	入居前、自宅に出向き本人や家族と面談し、生活歴や趣味、性格、意向等を聞き思いの把握に努めています。入居後は日々のケアの中で本人の思いを聞いており、意思疎通のできない利用者はおらず自分の意思を伝えることができ、月1回の会議の中で個々に得た職員の情報を持ち寄り、本人本位に検討し職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家からタンスなどの家具を持ち込んでもらいなじみの環境を作っている。本人からと家族からも面会時に話をしてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今できることを考え、出来ることをしてもらえ支援を考え実践している。何もしていない状況を出来る限り作る努力をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員にも担当を割り振り、利用者のことをより考えてもらえるようにして、モニタリング時には他の職員ともカンファレンスをしている。家族には面会時に話を聞いたり、本人にも聞き取りを行っている。	介護計画は3ヶ月に1回再アセスメントとサービス担当者会議を行うと共に計画の状況確認のためのモニタリングを行っています。状態が落ち着いている場合は6ヶ月毎にサービス担当者会議の中で見直しを行い、面会時や電話で聞いた家族の意向や往診時に聞いた医師の意見も加味し状況に応じた介護計画を作成しています。個々のサービス提供記録簿はプランに基づいた内容を記載するよう職員に伝えています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はしてもらい、気になることは申し送りやノートに記載し共有を図っている。		

ヒューマンライフケア伏見 グループホーム(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診は家族対応が原則だが、家族と連絡をとり職員が付き添ったり、病院での様子を伝えるために職員も同行したりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	金銭を自己管理されている方と買い物に出かけ、自己にて金銭管理をしてもらえる対応をしている。近隣での花屋に買い物を出来る環境を整えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診時に受診が必要であれば家族に連絡をして受診をしてもらう体制で行っている。家族がいけない場合は施設対応で行く時もある。	入居時に今までのかかりつけ医が継続できることを説明し数名の利用者が以前のかかりつけ医を継続しており、家族が受診の対応をしています。ホームの協力医は2週間に1回の往診があり、24時間連絡可能となっています。眼科や耳鼻科等の専門医への受診、は基本家族が対応し状況に応じて職員が対応しています。歯科や皮膚科については必要に応じて往診があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に1回訪問看護師が来所し利用者の様子をみられている。施設全体では1週間に1回来られているので間で必要があれば相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員も面会に行き、様子などを確認、情報発信をして病院との関係性を作っている。日常生活を忘れないように早期退院をうながした。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状終末期におられる方はいないが、急変がありそうな方に関しては家族や病院と連携、話し合いを常に進めている。万が一の対応などについても同様に進めている。	入居時に終末期支援について、できることできないことを説明しています。家族の意向があり、ホームとしての体制が整えば看取り支援を行う方向で考えており、往診時には家族に立ち合ってもらい、何度も話し合いを重ね都度意向の確認をしながら支援していく予定です。看取り支援の研修についても必要に応じて実施していく予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時への対応はマニュアルや救急隊へ渡す書類は作成しているが、職員内での勉強会はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練をして事前練習をしている。運営推進会議で近隣への災害時には避難してもらえらることを伝えている。	年2回併設の事業所と合同で昼夜想定消防訓練を実施し、内1回は事業所独自で通報等の訓練を行っています。1回は消防署立ち合いの下、通報、初期消火、避難誘導等の訓練を行い、自治会長や地域包括支援センター職員等の参加を得ています。地域の防災訓練には管理者が参加しており、自家発電機や簡易トイレなどの備品や飲料水、炊き込みご飯等備蓄品も確保しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日のケアの中で気をつけたり、月間目標で言葉について気をつけている。	年1回人権についての研修を行い理解を深めています。基本は人生の先輩であることを意識し、丁寧な言葉で対応するように心がけると共に接遇について月間目標を立て振り返る機会を持っています。不適切な対応が見られた場合は職員間で注意をしたり、管理者が都度指導を行っています。入浴等羞恥心を伴う場合、希望があれば同性介助に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	問いかけには疑問を聞いて答えを求めたり、思いは話を聞けるように傾聴している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体の流れはあっても、買い物の希望時には行ける体制をとったり、あらかじめ決めていた入浴も希望時にもはいたりしている。朝食は特に決められた時間ではなく個人にあった時間で提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自己決定を促したり、入浴時には洗顔料を使用したりしている。洗顔クリームを塗られている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理してもらえらることはしてもらい、当日変更したり、食べたいものを聞き取りをして提供したりしている。	食事は業者から献立と食材が届き、ホームで作っています。利用者に野菜の下拵えや調理等できることに携わってもらい、職員と一緒に食事を摂っています。行事にちなんだ内容のものやお楽しみメニュー等の他、月1回業者の食事を止めお好み焼きや鍋物、丼物等利用者の好みの物を作っています。外食や手作りおやつなども楽しみなものとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養は食事メニューをとっているのに偏っていない。摂取量も1人1人記録に残しながら申し送りしている。水分が少ないときは積極的にとってもらえらるよう促している。		

ヒューマンライフケア伏見 グループホーム(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの促しをしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位がだんだんと取れにくくなっている方に関しても立ち上がりの練習をして、トイレに行ける援助を行っている。	排泄チェック表を付け、一人ひとりのパターンを把握し、トイレへの声かけや誘導をすることで失敗が少なくなるよう支援しています。おむつ使用で入居した方もその人に合わせた支援をすることで紙パンツに移行した例もあります。排泄用品や支援方法等について職員間で検討したり家族と相談しながら自立に向かうよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の促しと、自己にてトイレに行かれる方に関しては都度聞き取りを行っている。全員トイレへ行けるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的にはその日の入浴者を決めているが希望時には入浴できるようにしている。	入浴は週2回以上を目途に午前中に入ってもらっています。希望があれば時間を調節することも可能で就寝前に入る利用者もいます。シャンプーやリンス、洗顔石鹸など好みの物を使用したり、毎月季節湯を企画し桃や桜、菖蒲、菊、柚子湯などの工夫を凝らし、職員とゆっくりと会話をしながら入浴を楽しんでいます。拒否のある場合は日時を変更したり同性介助で対応するなど無理強いをせずに入ってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れるように日中から覚醒を促し休んでもらえるように支援している。散歩や体を動かすレクリエーションにも取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	朝に血圧を下げる薬を飲まれている方に関しては服薬後30分おいてからバイタル測定をしている。食前に血圧測定をし、服薬できるかの確認をしている。眠剤では飲む時間を考えながら飲んでもらうようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事を一緒に作ったり、盛り付け、洗物等してもらっている。食事を作るときに味付けのアドバイスをもらったりしている。昔糠漬けをつけていた方と一緒にしたりしている。リハビリに生きがいを持たれている方に関しては歩行練習を毎日欠かさずにされる。		

ヒューマンライフケア伏見 グループホーム(2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外出も1対1で行くことでその人の話がしっかりと出来る環境作りや大勢で行くことでの楽しみを作る機会もその時の状況で考えて行っている。昔に行った場所へドライブをしたりしている。最近ではヨモギ湯の為に近隣の方から生えている場所を聞き、散歩がてら取りに行くことをした。	日々散歩する機会を多く作り、買い物やドライブ、地域行事への参加、保育園の運動会の見学等に出かけています。初詣や桜、つつじ、紅葉見学など季節毎の外出も取り入れ、外に出る機会を多く作るようにしています。また、家族と一緒に外出する利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理できる方はしてもらっている。お金を持ちたいと希望された方に関して、家族と話し合いをし、持ってもらうことをしてもらえた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状が届いて本人に渡していた。希望時にかけてもらう対応をした。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がされた塗り絵や季節もの、写真などを貼りみてもらえるようにしている。近隣への花屋さんに季節の花を買いに行き飾っている。	リビングには桜の花の貼り絵や利用者と一緒に買ってきた生花を活けたり、散歩中に摘んだ花を花瓶に挿したり季節感を味わってもらっています。ソファを置きゆったりと過ごせるよう工夫をしたり、日々掃除や換気を行い、温湿度計を置き利用者の体感にも留意しながら調節し快適に過ごせる共用空間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席も基本的に決めずにその日の起きられて自分で座られている。食事中にムセ込を気にされる方は1人で食べられる席を用意したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていたタンスや鏡台、神棚を持って来てもらっている。転倒リスクのある方がタンスの中から衣類をいつでも触れるようにベッドを中止し、四つん這いでタンスまで行けるように配慮した居室作りをした。	入居前に馴染みの物を持参してもらうよう家族に伝え、整理ダンスや洋服ダンス、鏡等持ち込まれ、家族が配置していますが、利用者の身体機能等にも留意し、家族と相談しながら配置換えを行うこともあります。神棚に毎日水を供えたり、家族の写真や人形、縫いぐるみ、漫画本など大切な物も傍に置き安心して暮らせるよう配慮しています。居室入口横には利用者の顔写真や馴染みの場所の写真等を貼り自身の居室をわかりやすくしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	コップをリビングに置くことでご自身で取りに行ける環境を作った。車椅子自走をされる方がいつでもトイレに行けるテーブルの配置。		